

一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業

Japan Neurosurgical Database (JND) への参加について

2019年 8月 1日

柏崎総合医療センター 脳神経外科

当科は、一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業 Japan Neurosurgical Database (JND) が実施するデータベース事業に参加しています。

近年、高齢化の進展と医療会の増加に伴い、世界的に医療の質や適切な医療を受けることに対する関心は高まりつつあります。本研究の目的は、日本脳神経外科学会の会員や専門医が所属する、日本全国の脳神経外科施設における手術を含む医療情報を登録し、集計・分析することで医療の質の向上に役立て、患者さんに最善の医療を提供することを目指すプロジェクトです。データベースは複数の階層からなります。最も基本的なデータベース（以下、基盤データベース）では、できるだけ多くの患者さんの簡素な医療情報を収集し、より高層階のデータベースでは、臨床研究、医療機器開発、治験、お薬や医療機器の市販後調査などの個人の目的に応じたデータベースを構築する予定です。

収集したデータベースを分析することで、日本の脳神経外科領域における以下の課題について明らかにすることができます。

- ・手術を含む脳神経外科医療を行っている施設の特徴
- ・医療水準の評価
- ・手術、治療を受けた方の治療の結果
- ・これから手術、治療を受ける方の死亡、合併症の危険性の予測など
- ・専門医の資格更新要件到達度
- ・専攻医の研修目標到達度
- ・脳神経外科専門医精度のあり方に関する基礎資料
- ・医療機器や薬剤などの市場調査
- ・臨床研究、治験などを計画する際の基礎資料

これにより、日本の脳神経外科医療の実態を「見える化」し、明らかとなった課題に対して実際のデータに基づく改善策の検討や、施設、地域や全国単位での医療の水準を明らかにし、比較することなどが可能となります。

また、分析結果から、より正確に手術や治療にともなう危険が明らかとなり、担当医は患者さんやご家族とともに、治療に伴う危険と利益を共有した上で、治療方針を決定することができます。全国の脳神経外科医療の実態を俯瞰した視点で検証することで、全国の患者さんが安心して手術、治療を受けられるようにするため、より良い脳神経外科専門医制度のあり方を検証するための基礎資料ともなります。

今後基盤データベースを発展させ、さまざまな研究と連携して運営することで、臨床現場がさらに充実した脳神経外科医療を提供していくために役立つものとなります。

この事業は、日本脳神経外科学会が主導する多施設共同研究です。この研究では、日本脳神経外科学会の会員や専門医が所属する、日本全国の脳神経外科施設に入院されている患者さん全てを対象とさせていただきます。日本全国で年間約30万件の患者さんの登録を予定しております。この研究では、手術や検査など、通常の診療で行われる脳神経外科医療の情報を、専用のインターネットを介して、日本脳神経外科学会（以下本学会）事務局に送ります。個人を特定される情報は含みません。自分の情報の登録を希望されない方は、入院された脳神経外科施設の研究相談窓口にご相談下さい。

日本脳神経外科学会では、事務局で全国から収集しましたデータを用いて、脳神経外科で入院治療を受けられた患者さんの病気ごとの治療件数や治療に伴うリスクや入院日数などについて、解析を行う予定です。

研究期間は、2018年1月1日から2023年9月30日までを予定しています。

※本事業への参加に関してご質問がある場合は、当科のスタッフにお伝え下さい。

またより詳細な情報は下記に掲載されていますので、そちらもご覧下さい。

- ・ 一般社団法人日本脳神経外科学会データベース研究事業
(Japan Neurosurgical Database) に関する研究

<http://jnd.mincs-res.jp/jnd.web/>

- ・ 日本脳神経外科学会ホームページ

<http://jns.umin.ac.jp/>